

## 米国国立公文書館で確認した日本軍撮影空中写真について

永井信夫・小林政能（(財)日本地図センター）

### 所在情報

米国国立公文書館(NARA)のホームページやレファレンス資料に、日本が1939-45年に極東地域で撮影した約37,000コマ分の空中写真ネガフィルム(JX)を所蔵している旨の記述がある。

### 確認

2004年12月にNARAカレッジパーク分館で、内地を除く極東地区のうちから経緯度1°メッシュ11個分を任意に抽出し、そのメッシュに係る計500枚の標定図を閲覧した。その結果、3枚のJX標定図を「発見」。うち1缶分のロールフィルムを実見し、サンプルとして数コマの画像を複製取得した。

日本軍撮影空中写真にはJXというコードを付されているが、JXの索引は整備されておらず、大量の米軍撮影空中写真の中に混じって存在する。したがって、検索効率は非常に悪く、全容を調査するには膨大な労力を要するだろう。ちなみに、NARA所蔵ドイツ軍撮影空中写真のコードはGXである。

なお、米国議会図書館で発見された中国での日本撮影空中写真と同じものがNARAにも所蔵されているかどうかは未調査であり確認していない。

### 複製取得した空中写真

- (1) 場所：ニューアイルランド島南端部
- (2) 撮影日：1943年12月17日とフィルムに日本語で注記されている。
- (3) カメラ：型式未調査。ただし、フィルムに「f 99.76 Nr. 57816」と焼き込まれていることから焦点距離99.76mmと考えられる。画面の大きさは、17.8cm(7インチ)である。
- (4) フィルム：型式未調査。ただし、フィルム幅は19.5cm。両側にスプロケット孔がある。このロールフィルムが幅24cm(9インチ半)の通常の米軍用ロールフィルムにネガ焼きされて保存されている。すなわち、NARA所蔵のフィルムはオリジナルではなく、ロール対

ロールの複製品である。

(5) 縮尺：NARAの標定図には約1:84,000と記載されている。地図と写真を対比し、この記載が正しいことを確認した。

(6) 撮影高度：NARAの標定図には記載がない。焦点距離が99.76mmであるとすれば、8,400mということになる。

(7) 撮影コース：海岸に沿ってほぼ南北の単コース。オーバーラップ約66%。

(8) 撮影機：未調査。撮影高度8,400mとすれば機種は限られる。

(9) 撮影・処理部隊：未調査。ただし、フィルムの端に「昭和18.12.17、撮影ノフェニ諸島、タンガ諸島、リヒル諸島、ニューアイルランド南岸地区/No.1-77/(栗山)」との手書き注記がある。栗山は、撮影または現像処理の担当者名ではないかと思われる。

(10) 接收経緯：未調査。ただし、JX写真をNARAに送付したのは防衛情報局(DIA, Defense Intelligence Agency)である。なお、NARAが所蔵する内地分の空中写真には、我々の調査(完了はしていないが)によれば、JX写真が含まれていない。このことから、JX写真は、戦後内地で接收されたのではなく、外地(戦地)で接收ないし鹵獲されたものと考えられる。

(11) 内地の陸軍撮影空中写真との比較：国土地理院所蔵の整理番号「29-18-1」三島地区の写真(簿冊によると昭和16年4月1日撮影、1:8,000、F 99.49)と比較したところ、写真指標の形、時計、水準気泡、カウンター等の形と配置が一致する、またFの数値も近いことから、上記のNARA所蔵写真と同じ型式のカメラ・レンズで撮影されたものであることが確認できた。ただし、国土地理院所蔵陸軍撮影空中写真には他の型式のカメラで撮影されたものもある。また、NARA所蔵JX写真のカメラ形式もこの1種類であるという保証はない。

